

相 続 ド ッ ク NEWS RELEASE

2020年11月号

NEWS RELEASE NEWS RELEASE NEWS RELEASE NEWS RELEASE NEWS RELEASE NEWS RELEASE NEWS RELEASE NEWS RELEASE NEWS RELEASE

菅政権の新設「デジタル庁」にみる期待と不安！

菅政権、省庁にデジタル大号令！
書面・対面撤廃へ工程表！
どうなる？ 縦割り行政、既得権益



菅政権の目玉とも言える「デジタル庁」。政府は行政のデジタル化推進のため、2021年秋までの新設を目指しており、緊急課題が山積する中、スピードと実行力が問われます。

今なぜ、デジタル庁？



●菅首相のデジタル庁構想！

9月発足の菅内閣では、新型コロナウイルスの感染拡大で露呈した我が国の行政や社会の古い規制、デジタル化の遅れへの対処を喫緊の課題として、行政のデジタル化を推進する「デジタル庁」の設置を掲げました。

●コロナで露呈した日本の現状

<PCR検査がなかなか増えなかった>

安倍前首相が検査能力の数値目標を掲げても達成までに時間がかかり、実行の遅れの理由も判然としない。国と地方自治体、保健所、医療機関の連携がとれない縦割り行政の弊害が露呈。

<特別定額給付金10万円の現金支給が>

1人10万円の現金支給は事務手続きが煩雑で、欧米に比べスピーディに受け取れなかった。

<行政手続きや企業決済は紙とハンコ>

コロナ禍での在宅勤務も、行政手続きや企業の決裁にはいまだにハンコ・紙文化が健在で、支障が。

さらに、休校でのオンライン授業にも十分な環境が整備されていないなどの問題まで。

●電子政府ランキング14位に後退

国連発表の「電子政府ランキング」は加盟193カ国を対象に電子政府の進み具合を示し、2年に1度行われています。7月発表の今年のランキングでは、日本は14位でした。

<司令塔がないとの指摘が！>

日本は前回2018年の10位から4つ順位を下げ、2012年の18位以来の低い順位沈んだ。担当が内閣府、内閣官房、経済産業省、総務省などに分かれ、司令塔がないと指摘された。

●韓国は過去10年ベスト3入り！

1位は前回に続いてデンマーク、韓国は2位で前回より順位を1つ上げ、過去10年にわたりベスト3以内をキープ。3位には前回16位から躍進したエストニアがランクイン。

<電子政府ランキング> 国連経済社会局

順位	2014年	2016年	2018年	2020年
1	韓国	英国	デンマーク	デンマーク
2	オーストラリア	オーストラリア	オーストラリア	韓国
3	シンガポール	韓国	韓国	エストニア
4	フランス	シンガポール	英国	フィンランド
5	オランダ	フィンランド	スウェーデン	オーストラリア
6	日本	スウェーデン	フィンランド	スウェーデン
7	米国	オランダ	シンガポール	英国
8	英国	ニュージーランド	ニュージーランド	ニュージーランド
9	ニュージーランド	デンマーク	フランス	米国
10	フィンランド	フランス	日本	オランダ
-		日本 (11位)		日本 (14位)

●日本は世界に追い抜かされた!?

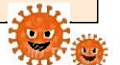
今年の調査では後開発途上国を含めて世界すべての地域で電子化の進展が見られ、対象国の2割以上で開発レベルが向上したと発表。

<電子政府発展度指標でランク付け>

ランキングはオンラインサービス、人的資本、通信インフラの3分野の個別指標を基に算定され、日本はオンラインサービス評価が下がったため指標が伸びず、電子化が急速に進んだ国が増えることで追い抜かれた格好に。

●コロナ禍が電子政府を活性化

国連は新型コロナ感染拡大が、電子政府の役割を再活性化し、危機管理の革新的な方法をも



たらしたことに言及しています。

●まだファクスを使ってる!?



わが国では、新型コロナ禍に電話やファクスで情報をやりとりする行政機関が多いことが判明。デジタル化の遅れの象徴はマイナンバーカードで、社会保障や税の手続きの効率化で16年にスタートしたものの、いまだに普及率はわずか2割弱にとどまっています。

デジタル化、宣言は20年前



●発足後から急ピッチで進む!

菅首相は総裁選の時からデジタル庁設置を最優先課題と位置付けており、内閣発足後から慌ただししい動きを見せています。

●9月16日 菅内閣が発足。デジタル改革・IT担当大臣に平井卓也氏が就任。

●9月23日 内閣発足から1週間後に、すべての閣僚が出席する「デジタル改革関係閣僚会議」を開催(年末までに基本方針を取りまとめると表明)

●9月30日「デジタル改革関連法案準備室」が発足。室長は平井大臣、内閣官房IT総合戦略室の中に設置。総務省や経済産業、厚生労働、財務、文部科学省から50人招集。民間10人程度を順次追加。

●12月 2021年度予算案閣議決定(基本方針まとめ)

●2021年1月 通常国会、関連予算、関連法案提出

●2021年4月以降 IT関係予算執行、関係法施行 2021年秋までにデジタル庁を設置

●一元管理で司令塔機能を目指す!

デジタル庁設置は各省庁のシステムの一元化と縦割り行政の打破を目指し、そのため強力な司令塔機能を持たせるとしています。デジタル庁が各省庁のシステム開発を管理し、是正が必要な場合は勧告する機能を持たせる案も浮上。

●デジタル庁の位置づけは?



<「庁」と「省」の違いは?>

「省」は国家行政組織法3条で「内閣の統轄の下に行政事務をつかさどる機関」とされ、「庁」は内閣府設置法や国家行政組織法で「外局」に位置付けられる「省」の下部組織。デジタル庁が各省にまたがる関連部署を束ねることができるのかとの声も。

トップには平井デジタル改革相とは別の「長官」が必要になります。民間人の登用が取り沙汰されており、人選が気になるようです。

●骨太の方針に「デジタル」急増!

平井デジタル改革相は就任直後の記者会見で、過去の経済財政運営の基本方針(骨太の方針)で「デジタル」という言葉が使われた回数に言及。16年が0回、17年3回、18年9回に対

して19年は53回、20年は105回と急増したと、政府の本気度をアピールしていました。

●注目の平井卓也氏とは?



菅首相の肝いりのデジタル・IT担当相に就任した平井卓也氏には注目が集まりました。

<政治家一家出身のエリートで>

初入閣した2018年、朝日新聞は「作曲もこなす元電通マン」と紹介。2000年初当選後、自民党IT戦略特命委員長、ネットメディア局長、広報本部長を歴任。今年5月、検察庁法改正案審議中に「ワニ動画」を閲覧していたことで話題に。

●台湾IT大臣は天才プログラマー

IT大臣と言えば、16年に35歳で台湾のIT大臣に就任したオードリー・タン(唐鳳)氏は天才プログラマー。マスク不足解消の成功でも有名ですが、日本の大臣との比較は無理がありそうです。それでも、USBメモリを知らなかったサイバーセキュリティ大臣や、スマホ投稿ができるのが自慢というIT大臣に比べれば大きな進歩かもしれません。

●20年間も放置された公約?



デジタル庁設置へ向け、2021年通常国会にIT(情報技術)基本法の改正案が提出されるようです。同法は政府が20年前に「5年で世界最先端のIT国家を目指す」と掲げ、「2003年までに実質的に全行政手続きをインターネット経由で可能に」を目指し策定したもの。

<IT基本法とe-Japan戦略>

IT基本法は森喜朗政権時の2000年に設けた「IT戦略会議」で策定。01年同法に基づき「e-Japan戦略」をまとめ、電子政府の推進(オンライン化時期の前倒し)の法案策定が決定された。

●e-Japan戦略は絵に描いた餅?

政府はe-Japan戦略をはじめとするIT戦略を毎年策定していますが、デジタル化の歩みは遅く、このコロナ禍に霞が関の省庁間ではシステム仕様の違いから、コロナ対策を協議するテレビ会議ができなかったとか。

●なぜ失われた20年になった?



e-Japan戦略が進展しない原因は政官業が実現意志を欠いていたこと。国内に競争相手がいない行政は自ら効率化・省力化する動機が乏しく、そんな省庁を政治も放置し、歴代政権ではIT化は最優先課題にしてきませんでした。

<米国の巨大IT社会の基礎>

米国ではクリントン政権でゴア副大統領が「情報スーパーハイウェイ」構想を推進し、現在のインターネット社会や巨大ITの基礎を築いた。

これまで日本ではITは「票にならない」という扱いで政治の関心は低かったようです。

＜政官業のもたれ合いが競争力を？＞

かつて我が国の情報通信産業は国際的な競争力があったが、21世紀に入っても行政に最先端といえないシステムを売り続け、官需に頼れば売上げが確保できるため新分野に挑まなかった。

IT人材も霞が関には乏しく、IT企業の幹部が政府の要職に就く米国などとは対照的。

デジタル化への期待と不安



●電子政府の先進国では？

＜電子政府ランキング1位のデンマーク＞

国民にとって「役所」とはほぼデジタル空間上の存在を指す。国民（約580万人）の8割がデジタルIDを持ち、給付金や税金など役所の通知は全てネット上の「電子私書箱」に届く。

＜急躍進4位のエストニアでできること＞

サイバー先進国では、行政手続きの99%がデジタル化完了。していないのは結婚、離婚、不動産売却の3つ。慎重な判断が必要なものを除外。

- 確定申告（3日後に還付金）
- 企業の登記申請、年次報告書の提出、取締役会リストの変更
- 医療記録、来院履歴、病歴、X線写真の病院共有
- 大学への入学願書申請
- 学校への入学申請、成績表へのアクセス

●エストニア、電子政府化のワケ

1991年にソ連から独立し、主力産業も資源も無い同国でしたが、ソ連の残した最先端のサイバネティクス研究所の優秀な人材がソ連崩壊後も残り、国家システムを構築しました。

一方、ソ連崩壊後も残る大国ロシアの侵略に備え、政府関係の全情報をデジタル化し、いつでもバックアップできる体制に。政府の全データベースはルクセンブルクに置いているとか。

●どうなる我が国のデジタル化



菅政権はデジタル化に向けてマイナンバーカードの普及と活用が必至としています。

＜広がるマイナンバーの活用＞

2020年 9月	ポイント還元策「マイナポイント」開始
2021年 3月	健康保険証として本格運用 健康診断情報の閲覧可能に
2021年10月	薬剤情報・医療費の閲覧可能に
2021年予定	預貯金口座と連動（選択制）
2026年予定	運転免許証と一体化
将来は	スマホに搭載して本人確認に使用
	「お薬手帳」の記録管理
	大学の学生証と兼用 技能講習修了の証明



●マイナンバーが預金口座と連動！

政府は来年にも個人のマイナンバーと預貯金口座を連動させる方針です。

＜義務化せず、個人の選択制に＞

10万円の定額給付金の支給に時間がかかったことの反省を踏まえて、法整備を急ぐことにしたが、義務化はせず個人が選択できるようにする方向。すべての口座を連携する案も検討したが、「国が資産を把握するためではないか」との懸念が広がる恐れがあるため、見送られた。

●免許更新がオンラインで完結！

マイナンバーカードと運転免許証の一体化で、行政のデジタル化が加速します。免許証の住所変更や更新時の講習もオンラインで完結する仕組みに。警察署や免許更新センターに向く必要がなくなります。

●デジタル化へ向け4段階で！



＜規制などが残る主な手続きと工程表＞

第1段階 押印の廃止	
官	給与所得者の扶養控除などの申請
官	就労証明書、在職証明書の申請
第2段階 書面・対面の撤廃	
官	転入届
民	オンライン診療や服薬指導
民	不動産売買時の重要事項説明書の書面交付
民	金融機関での口座開設など
第3段階 常駐廃止	
民	産業医
民	調剤薬局の薬剤師
第4段階 支払いのデジタル化	
官 民	一部自治体で税・保険料・手数料の支払いに使えない電子決済サービス



●システム予算も一元化？

省庁でバラバラに構築するシステムの一元化には予算の一元化も必要です。各省庁に分散しているIT政策予算をデジタル庁に集約するなら、予算を失う可能性のある省庁からは猛烈な抵抗も予想されます。予算をデジタル庁に移管した場合、各省庁が持っていた行政上の責任をどこまで負うのかという問題も。

●政府のIT基盤はアマゾン製？

10月から全省庁が利用するIT基盤である「政府共通プラットフォーム」は米アマゾン傘下のクラウド企業のサービスに移行しました。整備・運用にかかる費用は2026年までで300億円を超える見通し。これはデジタル化にあたり、基盤となる「国・自治体のシステムの統一・標準化」をアマゾンに一任するというところに。

＜NTTデータ敗北と国家機密＞



競争入札が行われ、比較・検証の結果、アマゾンなどの海外勢に比べ国内メーカーが技術力で劣っていることが明らかに。気になるのは国家機密や国民の個人情報の漏洩やセキュリティだが、防衛や外交の機密情報は安全のため対象外とか。